



洪水ハザードマップとは

郡山市洪水ハザードマップは、阿武隈川、五百川、藤田川、逢瀬川、谷田川、笹原川、桜川、天神川、及び八島川流域に想定される最大規模の降雨(※)があった場合に、川があふれたり堤防が決壊したりすることで、浸水が想定される範囲や浸水の深さを示すとともに、氾濫によって家屋倒壊等のおそれがある区域などを表示しています。日頃の防災訓練や洪水時の安全で迅速な避難行動にご活用ください。

- 家屋倒壊等のおそれがある区域や、住宅まで水没するおそれのある区域(浸水深3.0m以上)について、早期に立退き避難が必要な区域として表示しています。
- 地図に色がついていない場所でも、雨の降り方によっては浸水する可能性がありますので注意してください。(表示の浸水深よりも浸水の深さが大きくなる可能性もあります)

※想定される最大の降雨とは、現状の科学的な知見や研究成果等を踏まえ、ある程度の確かな見込みをもって想定し得る最大規模の降雨として設定しています。
図郭10(熱海) 2日間の総雨量 383mm (五百川流域) 令和3年11月26日指定

凡例の区分と避難行動

家屋倒壊等氾濫想定区域および想定される浸水が深い区域は早期の立退き避難が必要です。自宅等の位置と凡例を確認し、洪水時の避難に備えましょう。

凡例	求められる避難行動
早期に立退き避難が必要な区域	堤防決壊に伴う氾濫流で木造家屋が倒壊のおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
家屋が水没するおそれのある区域	河岸浸食で家屋が倒壊するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
その他の浸水想定区域	床上・床下浸水のおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
浸水想定区域外	床上・床下浸水が想定されることから、水平避難(立退き避難)が望ましい状況を確認し、自らの判断により垂直避難(屋内安全確保)※でも良い。

※垂直避難(屋内安全確保)を行う上での条件
①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない ②浸水深より居室は高い
③水がくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

洪水ハザードマップの活用方法

- ステップ1** 自宅付近が浸水想定区域内か確認しよう。
早期立退き避難が必要な区域か? 早く行くところを確認しよう
- ステップ2** 指定避難所及び避難経路を事前に確認しよう。
河川や水道の近くを通らないか? アンダーパス(地下道)を通らないか?
- ステップ3** 実際に避難経路を歩いて危険な場所がないかを確認しよう。
道路の状況や電線、マシンの位置など いくつかの避難経路を確認しよう 緊急時の集合場所等を決めよう
- ステップ4** 実際に歩いた情報をまとめ、わか家の避難地図を作ろう。
いくつかの避難経路を確認しよう 緊急時の集合場所等を決めよう

タイムライン防災 (警戒レベルとみなさんがとるべき避難行動)

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わりました。

○ 災害が発生する前に、タイムラインを確認して早いうちから避難の準備をしましょう。
警戒レベル3又は警戒レベル4で必ず避難しましょう。
警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベルの発令を待ってはいけません。

警戒レベル	状況	避難情報(市が出す情報)	みなさんがとるべき行動
警戒レベル5	災害発生又は切迫	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保! 近隣の建物 上階へ移動
警戒レベル4	災害のおそれ高い	避難指示	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3	災害のおそれあり	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難 ※警戒レベル3は高齢者だけの情報ではありません。「高齢者等」には障がいのある人や避難を支援する者も含まれます。
警戒レベル2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	自らの避難行動を確認
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	災害への心構えを高める

河川水位や雨の情報は国土交通省や気象庁のウェブサイトから確認できます。

河川水位や雨の情報(国土交通省・気象庁)が出す情報

警戒レベル	国土交通省・気象庁(警戒レベル相当情報)	国土交通省(河川)	国土交通省(土砂災害)
5相当	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	浸水の情報(河川)	土砂災害特別警戒(土砂災害)
4相当	氾濫発生情報	大雨特別警戒	
3相当	氾濫警戒情報	洪水警戒	大雨警戒
2相当	氾濫注意情報	洪水注意	大雨注意
警戒レベル1	早期注意情報	早期注意	早期注意

郡山市からの情報伝達とさまざまな情報の入手先

わが家の防災ハンドブックも活用しましょう!

郡山市では、市内の災害情報や避難情報などについて、多様な手段で市民のみなさんに、いち早くお知らせします。また、気象庁や国土交通省、福島県提供の気象情報や防災情報なども確認し、災害に備えましょう。

郡山市から発信する避難情報等

- 防災ウェブサイト** 防災防犯情報として、市や関係機関が発信する気象情報、災害情報、国民保護情報、避難情報、お知らせを掲載する他、防災に役立つ各種情報リンクを掲載しています。
- メールマガジン** 防災ウェブサイト内の「防災メールマガジン」から登録いただくことができます。郡山市防災メールマガジン 検索
- SNS** フェイスブック、X(旧ツイッター)に登録されている方が「いいね!」や「フォロー」していただくことで利用できます。
- 防災行政無線** 市内の小中学校や公民館、公園などに設置した屋外スピーカーから放送を流します。
- 電話ガイダンス** 災害情報を新着順に電話でお知らせします。災害情報専用電話 0120-131-963 (フリーダイヤル)
- VACAN** 各避難所の位置や開設状況、リアルタイムの混雑状況を確認できます。

国・県・報道機関からの情報

- 気象庁(福島地方気象台)** 天気予報、気象注意報・警報や防災気象情報を配信しています。
- 国土交通省 川の防災情報・川の水位情報** 雨量・河川水位、河川CCTVカメラによる河川の状況が確認できます。
- テレビ(NHKデータ放送)** ご家庭のテレビで確認できます。リモコンボタンを押すとし画面に切り変わります。
- 緊急速報メール** NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの携帯電話に送信されます。※情報は発信時点で市内にのみ配信されます。また、機種により、設定が必要なものや受信できないものがあります。
- コミュニティFM放送** 「郡山コミュニティ放送(こらじ)」から放送します。周波数・・・FM79.1MHz ※番組放送中でも強制閉断みで災害情報をお知らせします。
- スマホ災害時ナビ** 災害時に役立つスマートフォンアプリです。現在地から避難場所までのルートを表示したり、避難場所の住所などの詳細情報を確認することができます。

郡山市民のみなさん 積極的に情報収集!

目頃からの備え

わが家の防災ハンドブックの「郡山市マイ・タイムライン」や「非常用持出品・備品」を準備しましょう。

- いざという時のために、日頃から最小限の非常用持出品を用意し、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しましょう。
- 普段から洪水時の避難場所の位置を確認しておきましょう。
- 普段から、お住まいの地域の浸水が想定される範囲を確認し、自宅や職場などの最寄りの避難所等を確認しておきましょう。
- 避難ルートを記入しておきましょう 避難所等を確認したら、浸水が予想される道路を通らないように避難ルートを検討し、洪水ハザードマップに自宅等から避難所等へ行く避難ルートを記入しましょう。記入した避難ルートは、平常時から、お住まいの地域の浸水が想定される範囲を確認し、自宅や職場などの最寄りの避難所等を確認しておきましょう。
- 地域の防災訓練に参加しましょう 地域の防災訓練に積極的に参加するとともに、各種ハザードマップを参考に自分自身の安全な避難所等、避難ルートを定期的に確認する避難訓練を行いましょう。
- 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた分散避難をしましょう 避難所における3密(密閉、密集、密接)状態を防ぐために、避難所への避難に限らず、分散避難を検討しましょう。

郡山市の指定避難場所 避難する場所や避難ルートを事前に確認しましょう。

洪水ハザードマップには、緊急的な避難場所もあわせて示しています。指定された場所への避難が間に合わない場合や一時的に状況を把握した場合は、緊急時にはそちらに避難してください。

洪水ハザードマップホームページ

郡山市の洪水ハザードマップホームページでは、ハザードマップのダウンロードや要配慮者利用施設の確認ができます。
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2177.html>

郡山市地理情報システム

郡山市地理情報システムでは、洪水浸水想定区域内にある土地についてピンポイントで想定される浸水深を調べることができます。
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/22/1161.html>

災害時には、個々がおかれた状況に応じて、自らの判断で臨機応変に避難行動を取りましよう!

発行元 郡山市 建設部 河川課
〒963-8601 福島県郡山市朝日1丁目2番3号
電話番号 024-924-2701
ファックス番号 024-931-5243
E-mail: kasen@city.koriyama.lg.jp